

日本工営株式会社

ベトナムにおける安全野菜の流通システム構築実証事業



本事業の目的

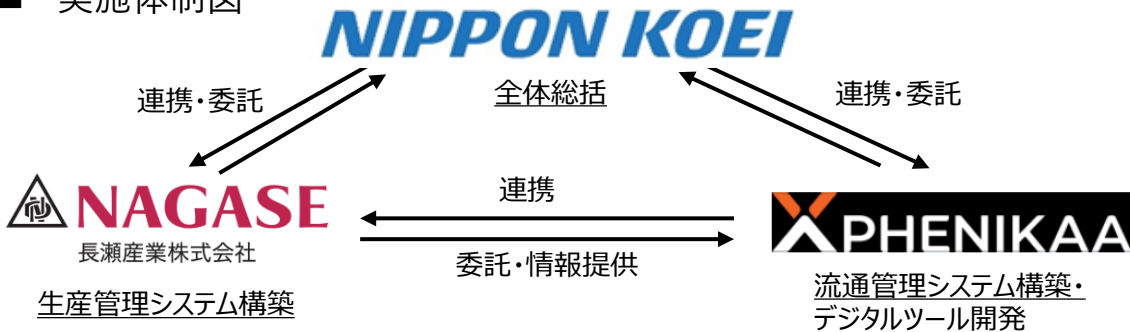
デジタル技術を用いた安全農産物の生産から流通までの一貫したトレーサビリティシステムの概念実証（PoC）を通じて、食の安全の見える化によるベトナムでの安全農産物の流通システムを確立することを目的とする。

現地企業や政府との協力・連携

■ 現地パートナー企業との協力体制

長瀬ベトナム社に、生産管理システム構築、生産データ分析、Phenikaa社の生産アプリ開発の監修およびシステム内に組み込むベトナムで流通される農薬や肥料の商品情報提供を委託した。Phenikaa-X社に、生産履歴・流通履歴管理システム、輸送ルート最適化および決済システムの構築およびWebサイトとアプリの開発を委託した。

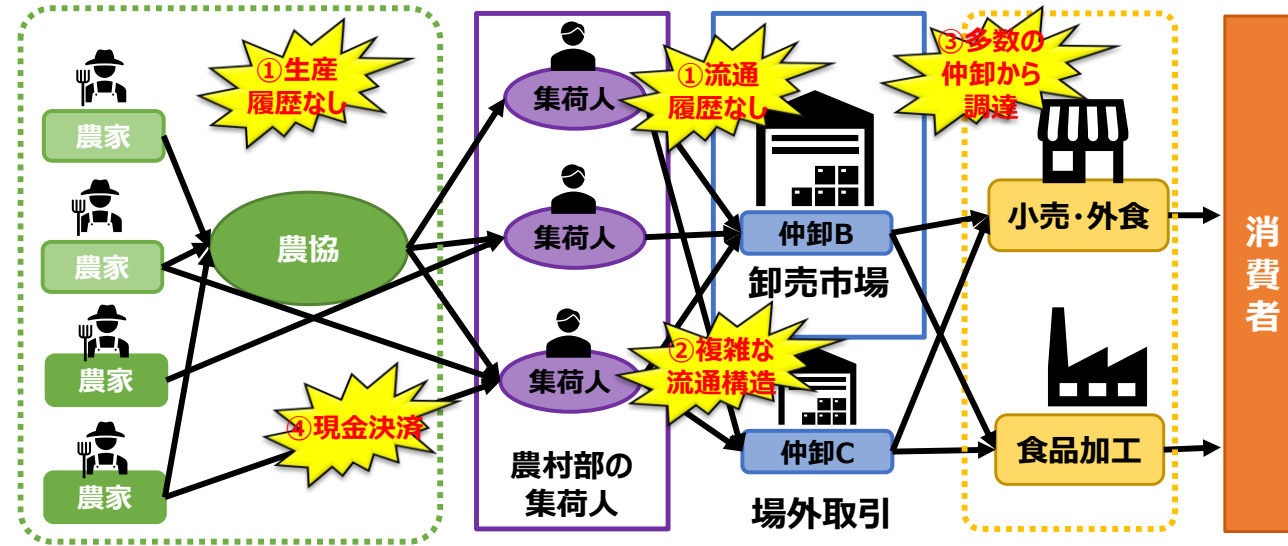
■ 実施体制図



現地の経済・社会課題

近年の消費者の食の安全への意識の高まりからトレーサビリティの向上が喫緊の課題だが、伝統的な流通において農産物の生産・流通履歴がなく、安全性が不透明な状況である。また、伝統的流通の多段階で複雑な流通構造は、流通段階でのフードロスを増加させるだけでなく、小売・外食業者の調達コストを上昇させている。さらに、生産者への支払では現金決済が主流であり、取引の効率性や透明性を低下させている。

農産物のEコマース分野において、生産から流通までの一貫したトレーサビリティを有する既存サービスはなく、BtoCサービスが中心で外食チェーンなどを顧客とするBtoBサービスは少ない。





日本工営株式会社

ベトナムにおける安全野菜の流通システム構築実証事業

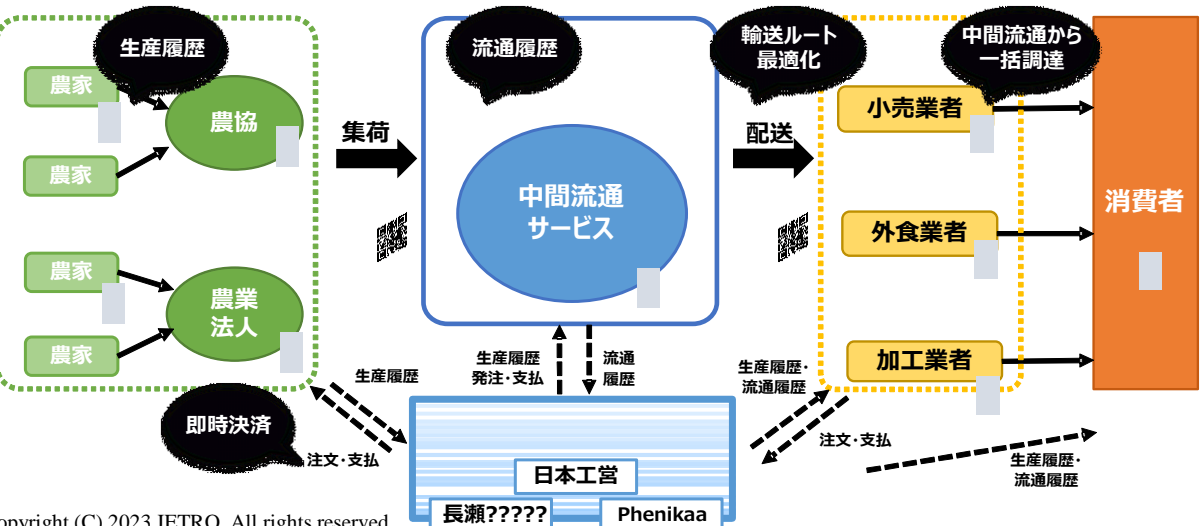
実証期間

2022年9月～2023年12月

実証した内容

■ 検証内容

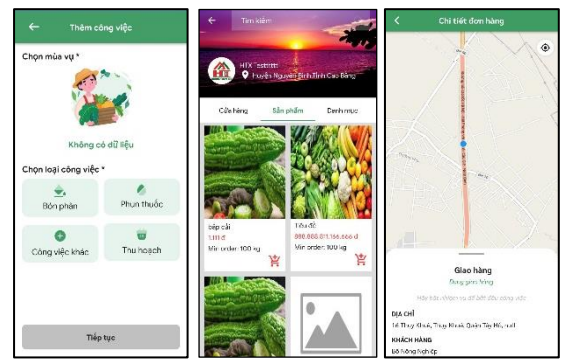
生産者と中間流通業者、小売業者向けのデジタルツール（アプリ、Webサイト）を開発し、①生産履歴と流通履歴によるトレーサビリティの確保と②DX技術による中間流通サービスからの一括調達、③輸送ルート最適化、④オンライン受発注と電子決済による決済手続きの簡素化についての検証を行う。また、事業・収益化に向けたニーズ調査を実施する。



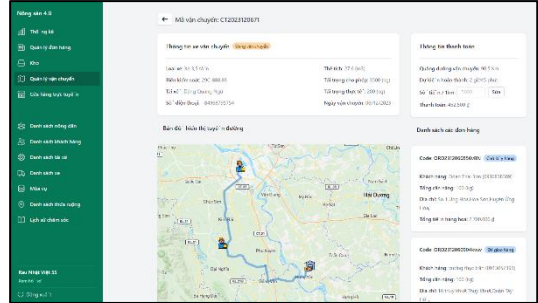
事業の成果/今後の予定

■ 成果

- 以下の生産・流通履歴システムに係るデジタルツールを開発し、実証試験にて動作確認をした。
 - 農家用アプリ「NongSan4,0」
 - 農協・システム管理者用Webサイト
 - バイヤー用調達アプリ
 - 輸送業者用配送アプリ
- 実証試験参加者へのアンケートで、83%がシステム全体に非常に満足し、すべての参加者が継続してシステムを利用したいとの回答を得た。
- 事業・収益化の検討に向けたニーズ調査の結果、食の安全性に関心をもつバイヤーは多く、不安解消に開発したシステムが有効な機能を持つことが確認した。



各アプリ画面



Webサイト画面

■ 今後の予定

ビジネスモデルとして想定しているアプリ提供と中間流通サービスの事業・収益化に向けた再検討を行う。Phenikaa社と連携してシステムの改修と継続試験を行い、実装に向けた精度向上を確認する。また、政府と連携したプロモーションや民間企業の類似事業との連携可能性についての検討・協議を行う。